

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 4 月 2 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530185

研究課題名(和文) 国際関係論における内発性・土着性・自立性の基礎的研究

研究課題名(英文) Research on the origin and endogenous development of International Relations as an academic discipline in post-war Japan.

研究代表者

初瀬 龍平 (Hatsue, Ryuhei)

京都女子大学・法学部・その他

研究者番号：40047709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、戦後日本における国際関係論の誕生と発展を、内発性・土着性・自立性の視点から、先達の業績の精査を通じて、検証することにあつた。研究成果の一部は、すでに内外の学会や公開講座などで報告しているが、その全体は、『日本における国際関係論の先達 -現代へのメッセージ-(仮)』(ナカニシヤ出版、2016年)として集大成、公開する準備を進めている。本書は、国際政治学(国際政治学、政治外交史)、国際関係論(権力政治を超える志向、平和研究、内発的発展論、地域研究)、新しい挑戦(地域研究の萌芽、新たな課題)に分けた先達の業績の個別検証と、全体を見通す座談会とで構成されている。

研究成果の概要(英文)：This aim of this joint research is to clarify and analyze the origin and endogenous development of International Relations as an academic discipline in post-war Japan. We have critically examined the academic achievements (books and journal articles) of thirty Japanese leading scholars. Predicated upon all research of the group members, we are preparing for a book entitled Leading Figures of International Relations in Japan, 1945-1980s, -their message to us- (in Japanese) (forthcoming in 2016). The sections shall be International Politics (theory, and diplomatic history), International Relations (alternatives to power politics, peace research, endogenous development, and area studies), New Challenges (studies of new areas, and emerging new fields), and a round table discussion.

研究分野：国際関係論

キーワード：国際関係論 内発性 土着性 自立性 内発的発展論 アイデンティティ 京都学派 平和思想

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまでに、日常性、人間存在、子どもなど、人と人の関係の視点に立脚した国際関係を重視する共同研究を進めてきた。本研究では、以上の成果のうえに、内発性・土着性・自立性に焦点を絞ることにより、人間・社会の内側から発信される国際関係論の再構築を試みることを目指した。

2. 研究の目的

内発性を中核概念にすえて日本を中心とする先達の研究を精査・解明することにより、国際関係論の再構築を試みることを目的とした。本研究では、内発性(広義)を、第一層(狭義の内発性)、第二層(土着性)、第三層(自立性)の三層構造でとらえ、思想(第一層、第二層)と政策(第三層)の有機的連関のなかで解明することにする。本研究では各層の代表的理論家(先達)を取り上げ、その先達については他の二層との関係も考察し、各層間の有機的連関の全体像の把握と解明に努めることとする。

3. 研究の方法

研究は、基本的に文献研究である。研究メンバーを「内発性」班、「土着性」班、「自立性」班に分け、さらに総括班をおき、各研究分担者は、内発性の視点から先達の研究成果を精査し、その理論的貢献と限界を明らかにし、学問的再位置づけを試みた。

定例研究会を第1年度と第2年度に年3回、第3年度に年2回開催した。研究会の報告者は研究分担者と研究協力者であるが、必要に応じて特定課題の専門家(慶應義塾大学・名誉教授・小田英郎、新潟国際情報大学・教授佐々木寛、東京大学・教授・石田淳、名古屋大学・教授・定形衛、広島修道大学・教授・三上貴教)を招き、知見の提供を求めた。また、最終年度には先達を実際に知る研究者(大阪市立大学・名誉教授・平井友義、早稲田大学・名誉教授・毛里和子、北海道大学・

名誉教授・中村研一、九州大学・名誉教授・菅英輝)による座談会を開催した。

4. 研究成果

本研究は、戦後日本における国際関係論の誕生と発展を、内発性・土着性・自立性の視点から、約30名の先達(原則として故人)の業績(学説、時事評論)の精査を通じて、検証することにあつた。

研究対象とした先達は、国際政治学の坂本義和、高坂正堯、永井陽之助、鴨武彦、神川彦松、政治外交史の細谷千博、斎藤眞、溪内謙、高橋進、国際関係論の川田侃、木戸翁、馬場伸也、平和研究の関寛治、高嶋通敏、高柳先男、内発的発展論の鶴見和子、村井吉敬、玉野井芳郎、新しい地域研究の小田英郎、板垣雄三、松田壽男、Non-Western IRの京都学派、国際人権研究の田畑茂二郎などである。

全体を通じて見えてくることは、権力政治からの自立をめぐる国際政治学の議論(坂本、高坂、永井、鴨、神川)、歴史研究と地域研究の実証性の問題(細谷、斎藤、溪内、高橋)、権力政治批判から国際関係論の理論化を進める試み(川田、木戸、馬場)、戦争の論理を超える道を探る平和研究(関、高嶋、高柳)、人々の生活・安全・人権の視点から国際関係を捉え直す内発的発展論・国際人権論(鶴見、村井、玉野井、田畑)、戦後に新しく登場した地域研究の開拓者(小田、板垣、松田)、Non-Western IR(京都学派)など、内発性、土着性、自立性の議論は国際政治の構造の見直し、国際社会・国際経済の新しい理論的追究や新しい地域研究の開拓などで、多面で重層的に展開されてきたことである。

研究成果の一部は、すでに内外の学会や公開講座などで報告しているが、その全体は、『日本における国際関係論の先達—現代へのメッセージ—(仮)』(ナカニシヤ出版、2016年)として集大成、公開する準備を進めている。本書は、国際政治学(国際政治学、政治外交

史) 国際関係論(権力政治を超える志向、平和研究、内発的発展論、地域研究)、新しい挑戦(地域研究の萌芽、新たな課題)に分けた先達の業績の個別検証と、全体を見通す座談会とで構成されている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Kosuke Shimizu (2015), 'Materializing the "non-Western": two stories of Japanese philosophers on culture and politics in the inter-war period', Cambridge Review of International Affairs, vol.28, no.1, 3-20. (Routledge)

Kosuke Shimizu (2014), 'The Ambivalent Relationship of Japan's Soft Power Diplomacy and Princess Mononoke: Tosaka Jun's philosophy of culture as moral reflection', Japanese Journal of Political Science, vol.15, no.4, 683-698. (Cambridge University Press)

初瀬龍平 (2014)「日本平和学会 40(+1)年 回顧と展望」『平和研究』第43号、127-140頁、査読無

[学会発表](計7件)

IKEO, Yasushi, The Possibilities and Limits of Local Government "Peace-oriented Policies" in Japan: Discussing National Security from a Local Perspective Nordic Association for the Study of Contemporary Japanese Society, Lund University, Sweden. 2015年3月6日

松田哲「植民政策学からの国際関係論構築とその後の展開 川田侃の研究を中心に」

定形衛「東欧地域研究と権力批判 木戸翁の研究を中心に」

戸田真紀子「アイデンティティ研究と国際関係論 馬場伸也の研究を中心に」

杉浦功一「関寛治の平和学と地球政治学構想」

佐々木寛「平和研究とパワー・ポリティクス - 高柳先男の政治的リアリズム」

宮下豊「鴨武彦によるリアリズム批判の

意味」

~ 日本国際政治学会
平成26年度11月15日
福岡国際会議場(福岡県福岡市)

[図書](計1件)

初瀬龍平 編著、『国際関係論入門 思考の作法』、法律文化社、2012年、320頁

[その他]

京都女子大学現代社会学部公開講座「平和を考えた日本の研究者たち」

2014年12月13日(土)

成蹊大学教授・遠藤誠治「戦争と平和 先達から学ぶ」

恵泉女学園大学准教授・堀芳枝「開発と平和 村井吉敬から学ぶ」

京都女子大学現代社会学部教授・戸田真紀子「女性と平和 緒方貞子から学ぶ」

京都女子大学法学部客員教授・初瀬龍平「平和学の未来 学んだことをどう生かすか」

<http://www.cs.kyoto-wu.ac.jp/?p=1069>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

初瀬 龍平 (HASTUSE, Ryuhei)
京都女子大学・法学部・客員教授
研究者番号: 40047709

(2) 研究分担者

戸田 真紀子 (TODA, Makiko)
京都女子大学・現代社会学部・教授
研究者番号: 40248183

市川 ひろみ (ICHIKAWA, Hiromi)
京都女子大学・法学部・教授
研究者番号: 50281754

野田 岳人 (NODA, Takehito)
群馬大学・国際教育研究センター・准教授
研究者番号: 20372352

池尾 靖志 (IKEO, Yasusi)
立命館大学・産業社会学部・非常勤講師
研究者番号: 20388177

堀 芳枝 (Hori, Yoshie)
恵泉女学園大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 30386792

宮脇 昇 (MIYAWAKI, Noboru)
立命館大学・政策科学部・教授
研究者番号: 50289336

妹尾 哲志 (SENO, Tetsuji)
専修大学・法学部・准教授

研究者番号：50580776

清水 耕介 (SHIMIZU, Kosuke)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：73010730

松田 哲 (MATUDA, Satoru)
京都学園大学・法学部・教授
研究者番号：80319441

杉浦 功一 (SUGIURA, Koichi)
和洋女子大学・人間・社会学系・准教授
研究者番号：70453470

杉木 明子 (SUGIKI, Akiko)
神戸学院大学・法学部・教授
研究者番号：40368478

豊下 檣彦 (TOYOSHITA, Narahiko)
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号：9025156
(平成24年度まで)

柄谷 利恵子 (KARATANI, Rieko)
関西大学・政経学部・教授
研究者番号：70325546
(平成25年度より連携研究者)

(3)連携研究者

菅 英輝 (KAN, Hideki)
京都外国語大学・外国語学部・客員教授
研究者番号：60047727

(4)研究協力者

和田 賢治 (WADA, Kenji)
神戸大学大学院・国際協力研究科・研究員

森田 豊子 (MORITA, Toyoko)
鹿児島大学・非常勤講師

中村 友一 (NAKAMURA, Yuichi)
中部大学・非常勤講師

山口 治男 (YAMAGUCHI, Haruo)
神戸大学大学院・国際協力研究科博士課程

土佐 弘之 (TOSA, Hiroyuki)
神戸大学大学院・国際協力研究科・教授

佐藤 史郎 (SATO, Shiro)
大阪国際大学・国際コミュニケーション学

部・講師

上野 友也 (KAMINO, Tomoya)
岐阜大学・教育学部・准教授

岸野 浩一 (KISHINO, Koichi)
関西学院大学・非常勤講師
(平成25年度より)

宮下 豊 (MIYASHITA, Yutaka)
早稲田大学・非常勤講師